

目的 本報では 第二報に基づいて 平安時代の構成を伝える健陀穀子袈裟について 二十世紀以降のものとの比較調査を行なう。

方法 正倉院に残る御物の袈裟とともに、我国最古の一つとされている健陀穀子袈裟は京都の東寺秘蔵のもので 弘法大師が唐から講来され、その織物構成、各部寸法及び経製技法の実物調査を行なった。

結果 健陀穀子袈裟独特の織り方は利衲されたものではなく、つづれ織におけるデザインとして織られたものであり、経製についても、各部寸法にも大きな格差がみられた。